

令和6年度第1回九州厚生局地域共生セミナー  
2024年7月23日（火）13：00～16:30 オンライン（Zoom）

# 農福連携

農研機構 西日本農業研究センター  
研究員 中本 英里

障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組。

- 農福連携に取り組むことで、**障害者等の就労や生きがいづくり**の場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む**農業分野において、新たな働き手の確保**につながる可能性もある。
- 農業と福祉（障害者）の連携という狭い意味で捉えられがちな農福連携ではあるが、農の向こうには**農林水産業や6次産業**などがあり、福の向こうには障害者だけでなく、**高齢者、生活困窮者、触法障害者など社会的に生きづらさがある多様な人々**が包摂されている。

## ■多様な農福連携の取組 引用：吉田（2020）

- ・ **障がい者が、「施設外就労」**の形で、農家で農作業の手伝いをする
- ・ **社会福祉法人等が、自ら農業**を行ったり、**農業法人を別途併設**させて農業に参入する
- ・ **農家や農業法人が、障害者を雇用**したり、**就労支援施設を併設**させて就労機会を創出
- ・ **企業が特例子会社を設置**して、農業分野で障がい者の就労の場を確保する
- ・ 医療機関、福祉施設等での園芸活動、農作業、**園芸療法**
- ・ **ケアファーム** など

# 1. 本報告の概要

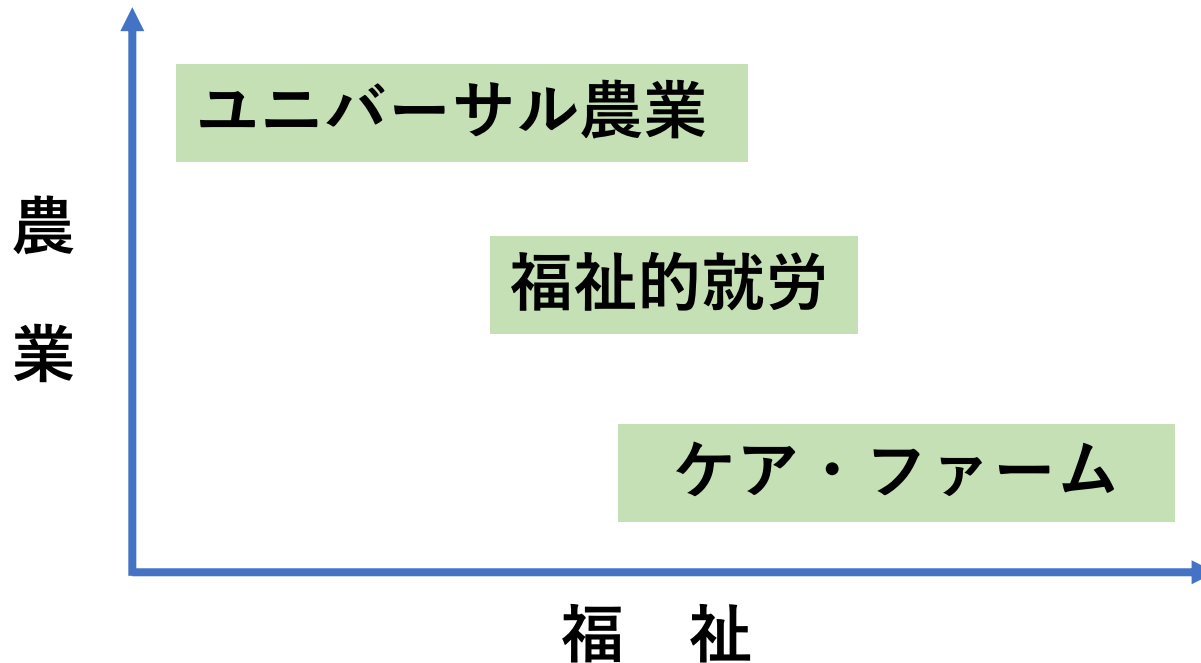


図1. 各取組の目的・位置づけ

註:1) 「農村発イノベーション」(農林水産省, 2021)を参考に作成。

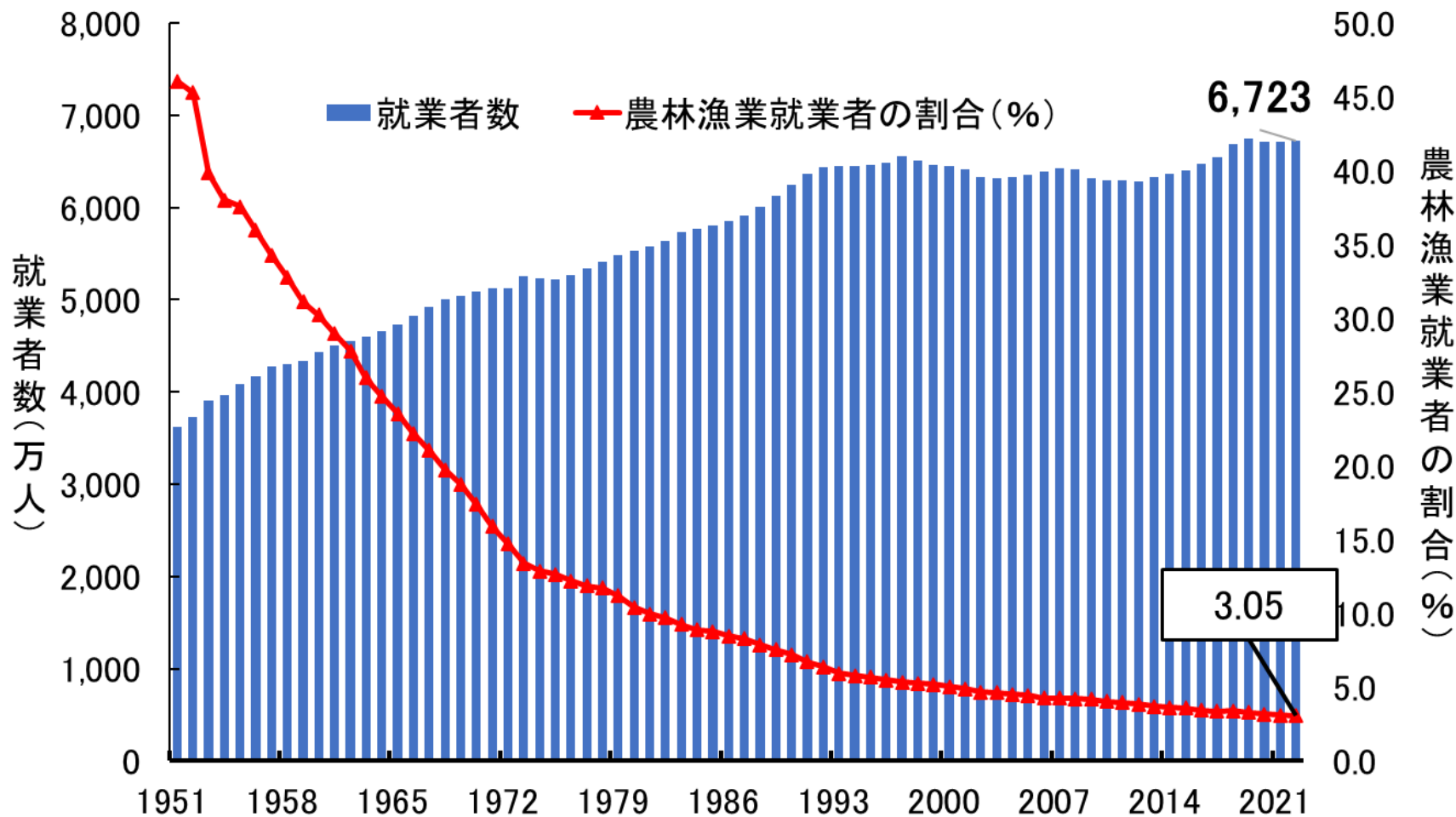
## \*ユニバーサル農業

農業に「福祉（well-being）」の概念を取入れることにより障害者の雇用の場を創出し、その取組を通じて農業の生産現場を再編し、農業経営の強化が目指されている。

障害特性あるいは作業者の個別性を事業の目標やルールに組み込み、農業現場を改善（変化、強化）させることで、多様な人材が農業に参加できる可能性が生まれる。

# 農業サイドの現状・課題

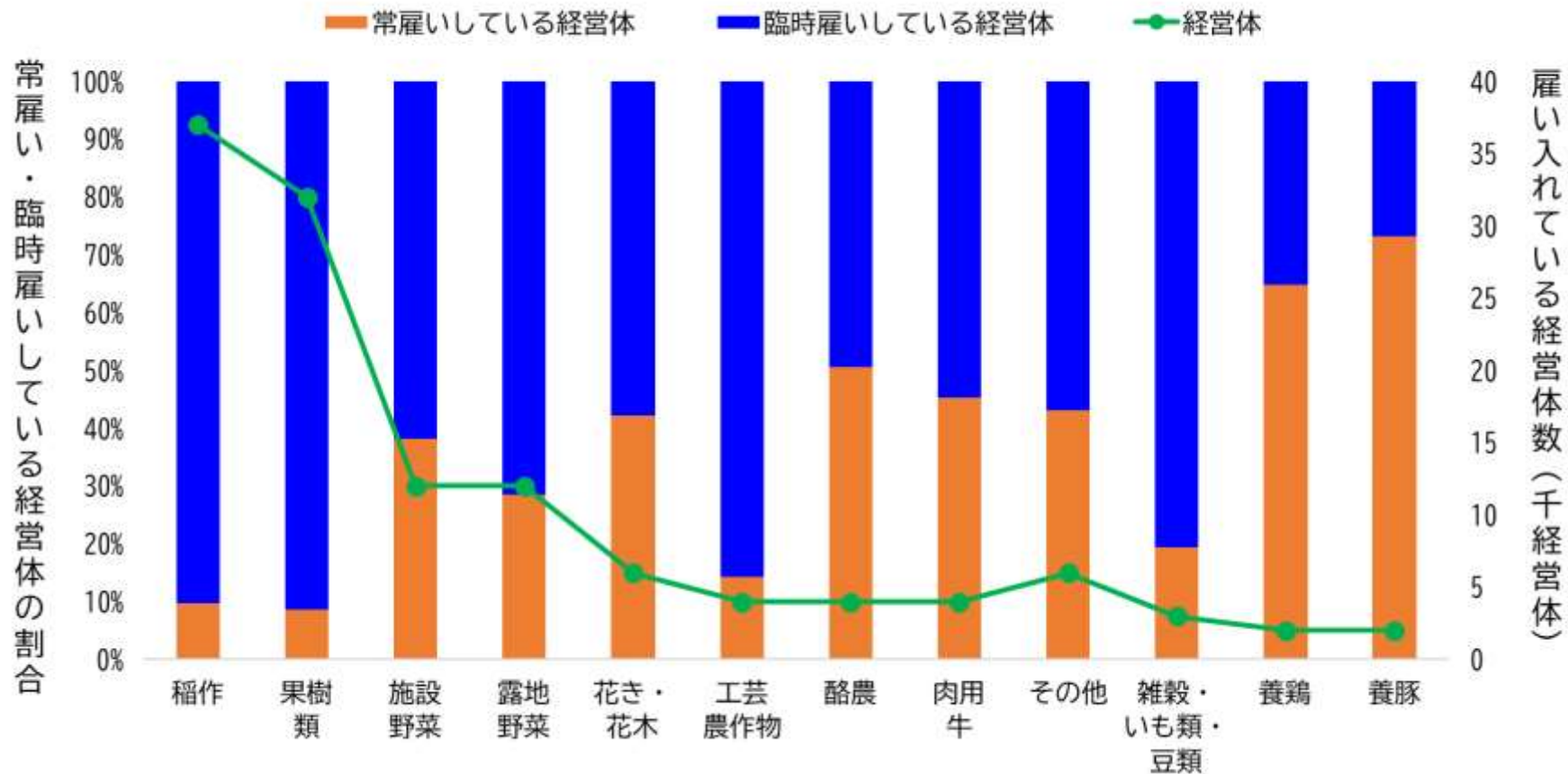
出典：総務省統計局「労働力調査」



就業者数と農林漁業就業者の割合 (%)

# 作目・部門別の労働力の特徴

出典：2020年農林業センサス



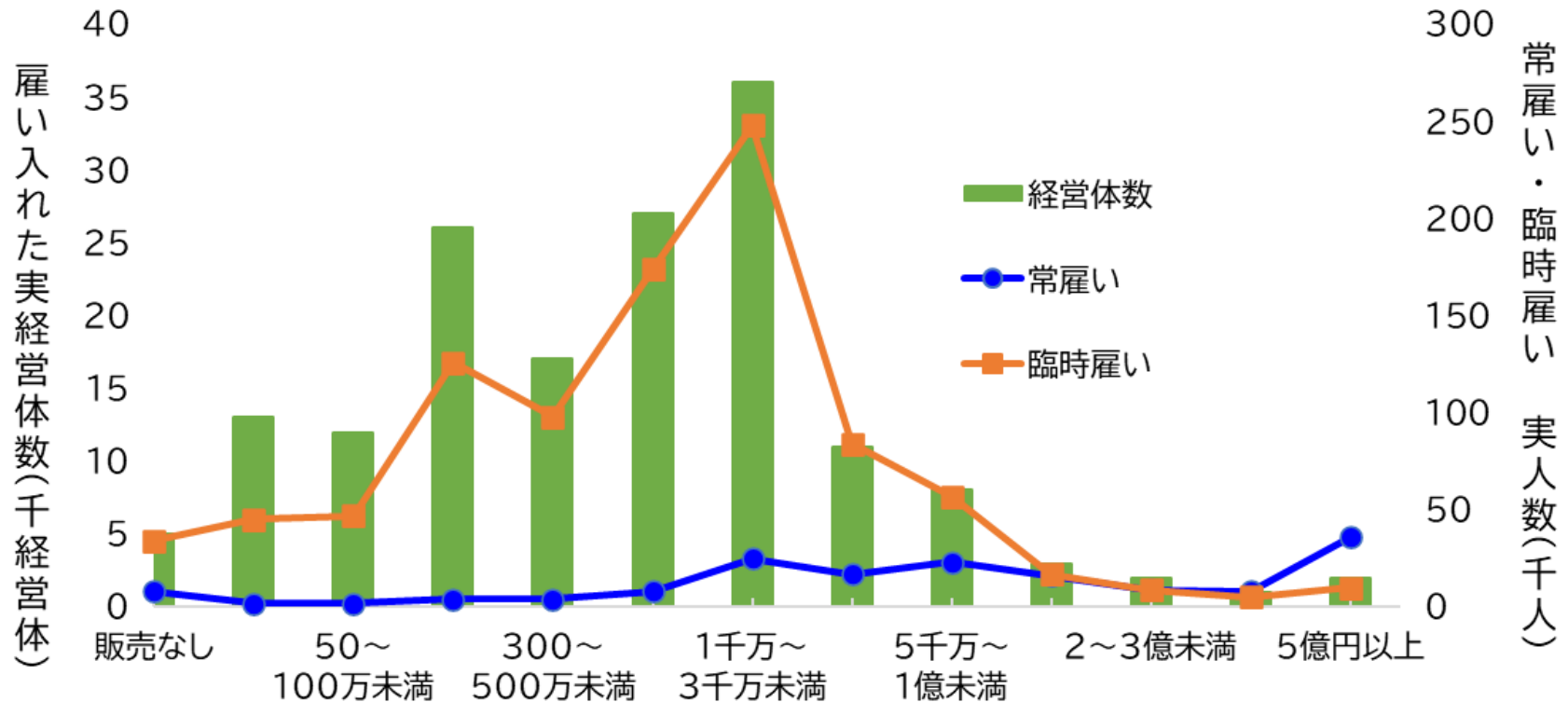
## 作目・部門別の雇用者の状況

註)

1. 農業経営体（総数）のうち、農業経営組織別統計の雇用者の状況をもとに作成。
2. 単一経営のみ。「単一経営」とは、経営体毎の農産物販売金額1位の部門（作目）の販売金額が、農産物総販売金額の80%以上を占める経営。

# 農産物販売金額別の雇用人数

出典：2020年農林業センサス



## 農産物販売金額別の雇用状況

註)

1. 農業経営体（総数）のうち、農産物販売金額別規模別統計を基に作成。
2. 常雇い：年間7か月以上の契約で主に農業（林業）経営のために雇った人。外国人技能実習生を含める。
3. 臨時雇い：「常雇い」に該当しない日雇い、季節雇いなど農業（林業）経営のために一時的に雇った人。手間替え・ゆい（労働交換）、手伝い（金品の授受を伴わない無償の受け入れ労働）を含む。農作業（林業作業）を委託した場合の労働は含まない。

# 農業における課題

出典：農林水産省  
「令和5年度農作業安全に関する基礎的な研修」資料

## ■農業労働力の確保

## ■雇用者を受けれている農業経営体 →雇用者の確保、労働環境の整備（改善）



例) 労働安全の確保

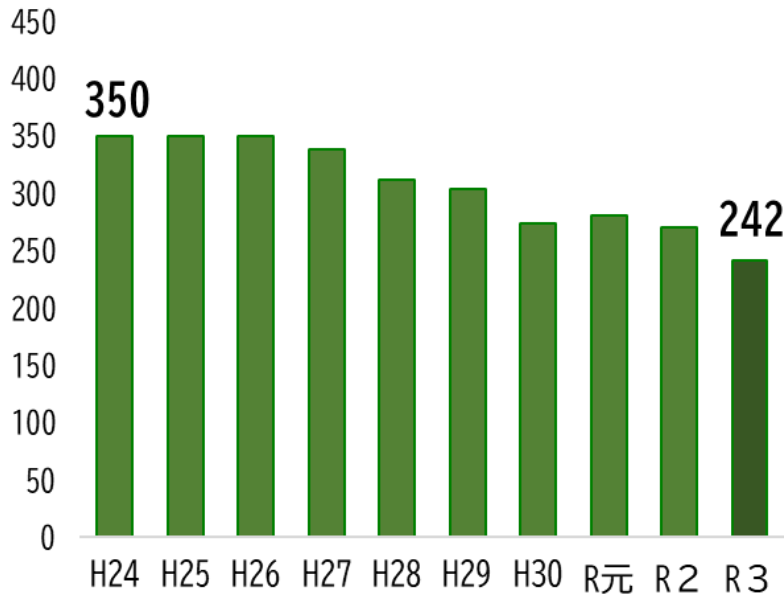


図1 農作業事故死亡者数の推移

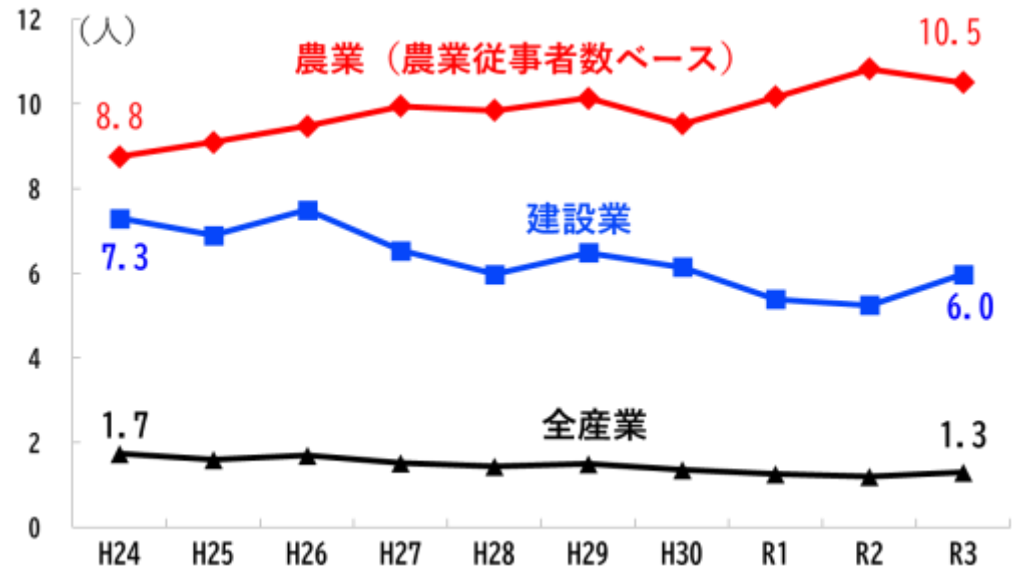
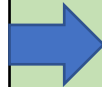


図2 10万人当たり作業事故による死亡者数



## ユニバーサル農業

- ・ 作業工程の細分化, 分業化
- ・ 治具や機械の導入
- ・ マニュアル作成 等



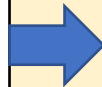
障害者・高齢者の社会参加などの効用を、農作業の改善や多様な担い手の育成に活かす

参考資料：濱田（2009）



## GAP (Good Agricultural Practices)

- ・ 整理整頓
- ・ 生産履歴の記帳
- ・ 資材の適正管理・点検 等



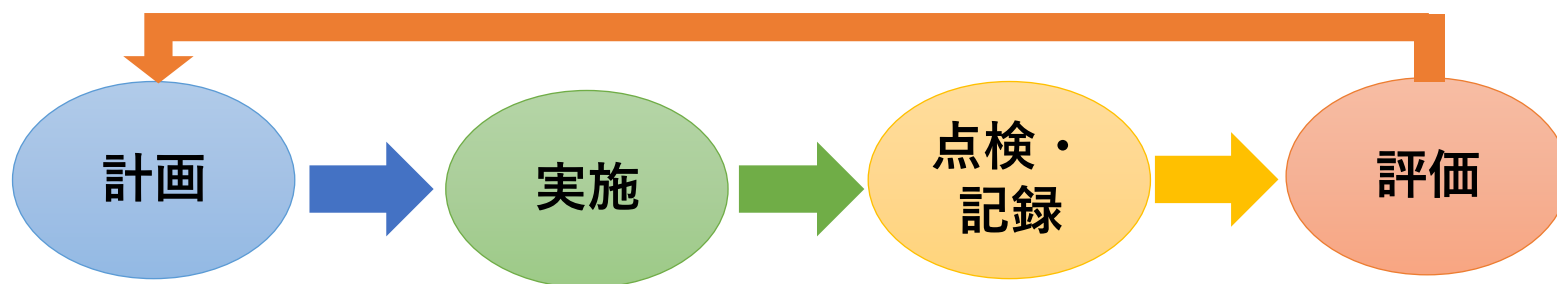
農場内を点検し、問題点を改善させ、リスク軽減や経営改善（従業員の自主性、販売先からの信頼獲得など）を図る

参考資料：農林水産省HP「農業生産工程管理（GAP）とは」

# 営農における作業環境整備（作業環境の改善）

# G A P (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理)

「農業生産の各工程の**実施、記録、点検**及び**評価**を行うことによる**持続的な改善活動**」(出典:農林水産省)。

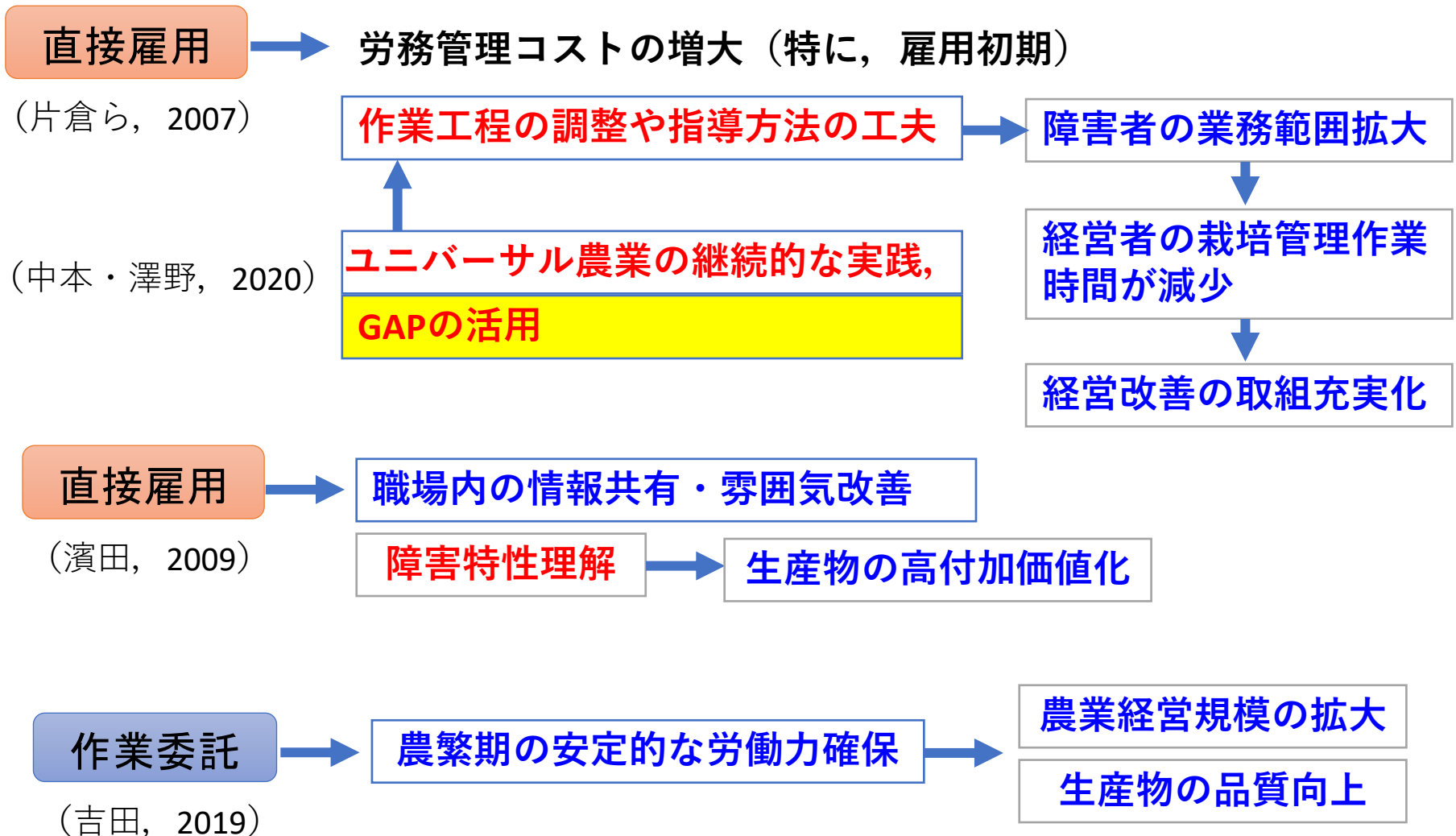


農場運営, 食品安全, 環境保全, 労働安全, 人権・福祉

→ JGAP

# 農福連携の取組による農業経営への影響 (先行研究)

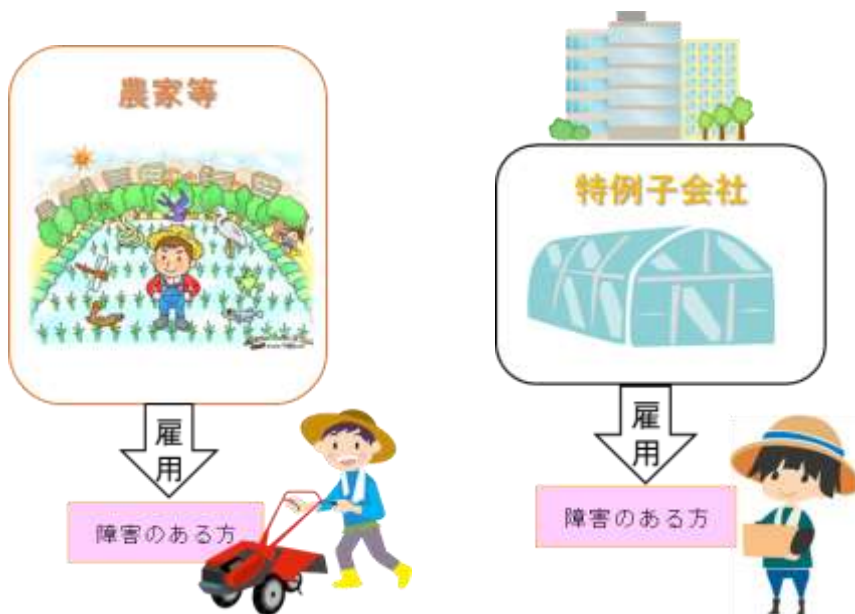
## \* 営農への障害者の受入



# 農福連携の取組形態

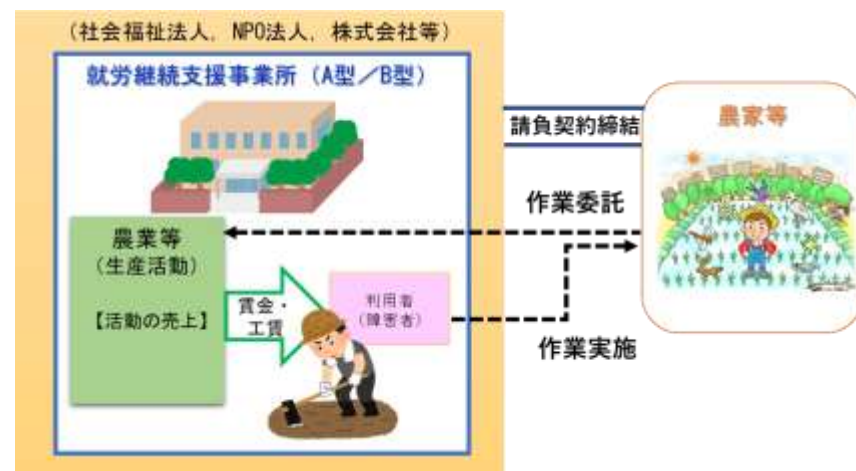
直接雇用

一般就労



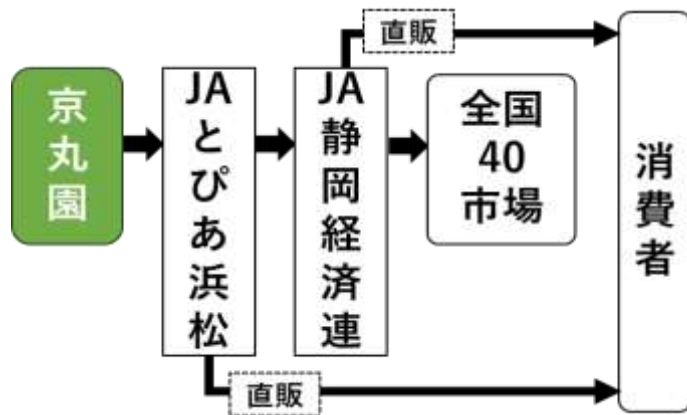
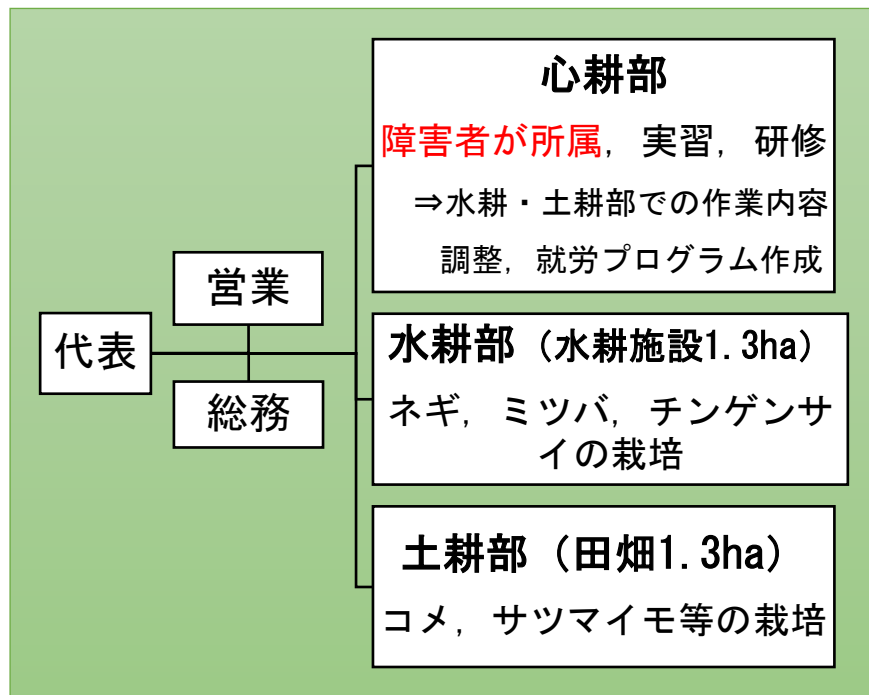
作業委託

福祉的就労



## 2. 営農におけるユニバーサル農業の実践

### 事例：京丸園株式会社



#### 【沿革】

1985年	代表が就農（当時は家族経営）
1994年	ネギ・ミツバの小型化開発→企業経営
1995年	<b>依頼があり障害者1名雇用</b>
1996年	障害者自立支援センターと連携し、研修生の受け入れ開始 <b>※ユニバーサル農業へ</b>
2003年	チンゲンサイの生産開始（主に障害者と農業未経験者が栽培管理を担当）
2004年	法人化
2013年	<b>JGAP認証農場</b>
2017年	しずおか農林水産物認証

#### 【受賞歴】

全国優良認定農業者・農水省経営局長賞受賞  
 日本農業賞（大賞，特別賞）受賞  
 障害者関係功労者表彰内閣総理大臣表彰受賞  
**GAP普及大賞受賞（2018年）**  
 農林水産祭天皇杯受賞

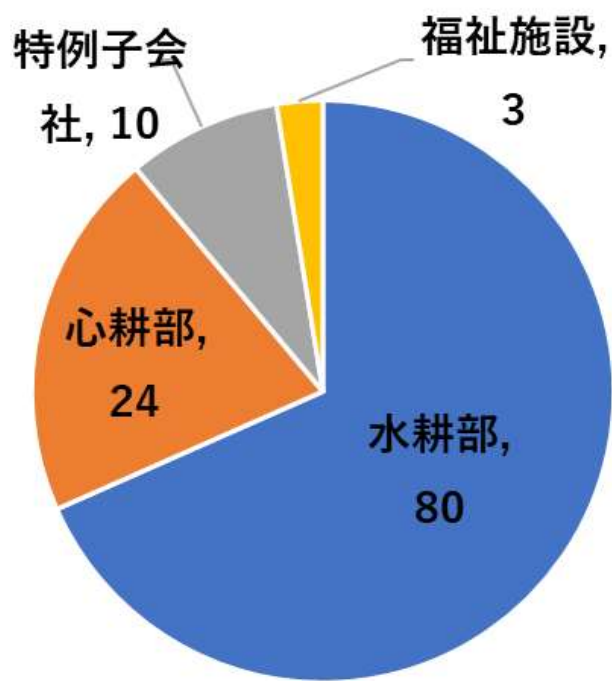
# 構成員

全体：117人

■京丸園株式会社 104人

：役員4名・社員10名・パート90名  
(うち、24人が障害者)

■外部委託 13人



—障害者の就労状況—

構成員の32%

- 雇用障害者
  - ・ 24人 (心耕部・パート職員)
    - ：知的障害 11人
    - ：身体障害 4人
    - ：精神障害 6人
    - ：発達障害 3人
- 外部委託
  - ・ 13人 (水耕部の業務担当)
    - ：特例子会社 (1社) から10人
    - ：福祉施設 (1所) から3人
    - ※施設職員も含む

- ・ 障害者雇用 1995年～（1名から開始）
- ・ JGAP認証 2013年取得

現在

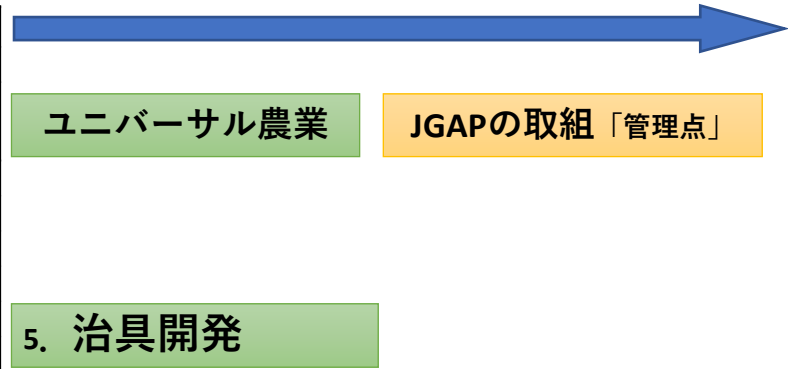
業務内容	担当人数	障害者雇用初期段階						
		作業担当者					特例子会社	福祉施設
		経営者	役員	社員	パート	障害者		
1 栽培計画	1			1				
2 作業指示/人員管理	1	○						
3 マニュアル作成	1	○						
4 育苗	1			1				
5 定植	5					5		
6 栽培管理	1	○						
7 栽培記録	1			1				
-	-							
8 草刈り（草刈り機）	1	○						
-	-							
9 収穫	6			1		5		
-	-							
10 調製	2				2			
-	-							
11 パネル洗い	1					1		
12 パネル運び	1				1			
13 栽培ベンチ掃除	1					1		
14 廃棄・分別処理	1				1			
15 農薬在庫管理	1	○						
16 資材管理	1	○						
-	-							
17 営業	1	○						
-	-							
担当業務数合計		7	0	4	3	4	0	0



- ・ 障害者雇用 1995年～（1名から開始）
- ・ JGAP認証 2013年取得

現在

業務内容	担当人数	障害者雇用初期段階						
		作業担当者					特例 子会社	福祉 施設
		経営者	役員	社員	パート	障害者		
1 栽培計画	1			1				
2 作業指示/人員管理	1	○						
3 マニュアル作成	1	○						
4 育苗	1			1				
5 定植	5					5		
6 栽培管理	1	○						
7 栽培記録	1			1				
-	-							
8 草刈り（草刈り機）	1	○						
-	-							
9 収穫	6			1		5		
-	-							
10 調製	2				2			
-	-							
11 パネル洗い	1					1		
12 パネル運び	1				1			
13 栽培ベンチ掃除	1					1		
14 廃棄・分別処理	1				1			
15 農薬在庫管理	1	○						
16 資材管理	1	○						
-	-							
17 営業	1	○						
-	-							
担当業務数合計		7	0	4	3	4	0	0





- ・ 障害者雇用 1995年～（1名から開始）
- ・ JGAP認証 2013年取得

業務内容	担当人数	障害者雇用初期段階						
		作業担当者					特例子会社	福祉施設
		経営者	役員	社員	パート	障害者		
1 栽培計画	1			1				
2 作業指示/人員管理	1	○						
3 マニュアル作成	1	○						
4 育苗	1			1				
5 定植	5					5		
6 栽培管理	1	○						
7 栽培記録	1			1				
-	-							
8 草刈り（草刈り機）	1	○						
-	-							
9 収穫	6			1		5		
-	-							
10 調製	2				2			
-	-							
11 パネル洗い	1					1		
12 パネル運び	1				1			
13 栽培ベンチ掃除	1					1		
14 廃棄・分別処理	1				1			
15 農薬在庫管理	1	○						
16 資材管理	1	○						
-	-							
17 営業	1	○						
-	-							
担当業務数合計		7	0	4	3	4	0	0



ユニバーサル農業

JGAPの取組「管理点」

9. 「○×」貼り紙

作業工程細分化  
⇒ 「運搬」の分業化

10.11.  
作業の見える化  
（数値化）  
作業体制の見直し、  
作業場新設、機械導入

- ・ 障害者雇用 1995年～（1名から開始）
- ・ JGAP認証 2013年取得

業務内容	担当人数	障害者雇用初期段階						特例子会社	福祉施設
		作業担当者					障害者		
		経営者	役員	社員	パート				
1 栽培計画	1			1					
2 作業指示/人員管理	1	○							
3 マニュアル作成	1	○							
4 育苗	1			1					
5 定植	5					5			
6 栽培管理	1	○							
7 栽培記録	1			1					
-	-								
8 草刈り（草刈り機）	1	○							
-	-								
9 収穫	6			1		5			
-	-								
10 調製	2				2				
-	-								
11 パネル洗い	1					1			
12 パネル運び	1				1				
13 栽培ベンチ掃除	1					1			
14 廃棄・分別処理	1				1				
15 農薬在庫管理	1	○							
16 資材管理	1	○							
-	-								
17 営業	1	○							
-	-								
担当業務数合計		7	0	4	3	4	0	0	



ユニバーサル農業

JGAPの取組「管理点」

「生産計画」

- ・ 障害者雇用 1995年～（1名から開始）
- ・ JGAP認証 2013年取得

業務内容	担当人数	障害者雇用初期段階						
		作業担当者					特例 子会社	福祉 施設
		経営者	役員	社員	パート	障害者		
1 栽培計画	1			1				
2 作業指示/人員管理	1	○						
3 マニュアル作成	1	○						
4 育苗	1			1				
5 定植	5					5		
6 栽培管理	1	○						
7 栽培記録	1			1				
-	-							
8 草刈り（草刈り機）	1	○						
-	-							
9 収穫	6			1		5		
-	-							
10 調製	2				2			
-	-							
11 パネル洗い	1					1		
12 パネル運び	1				1			
13 栽培ベンチ掃除	1					1		
14 廃棄・分別処理	1				1			
15 農薬在庫管理	1	○						
16 資材管理	1	○						
-	-							
17 営業	1	○						
-	-							
担当業務数合計		7	0	4	3	4	0	0



ユニバーサル農業

JGAPの取組「管理点」

「生産計画」

「作業者の労働安全」

「作業者及び入場者のルール」

「出荷・収穫記録」

「農産物取扱い工程におけるリスク管理」

「労働安全管理及び事故発生時の対応」  
「機械・設備の安全な使用」

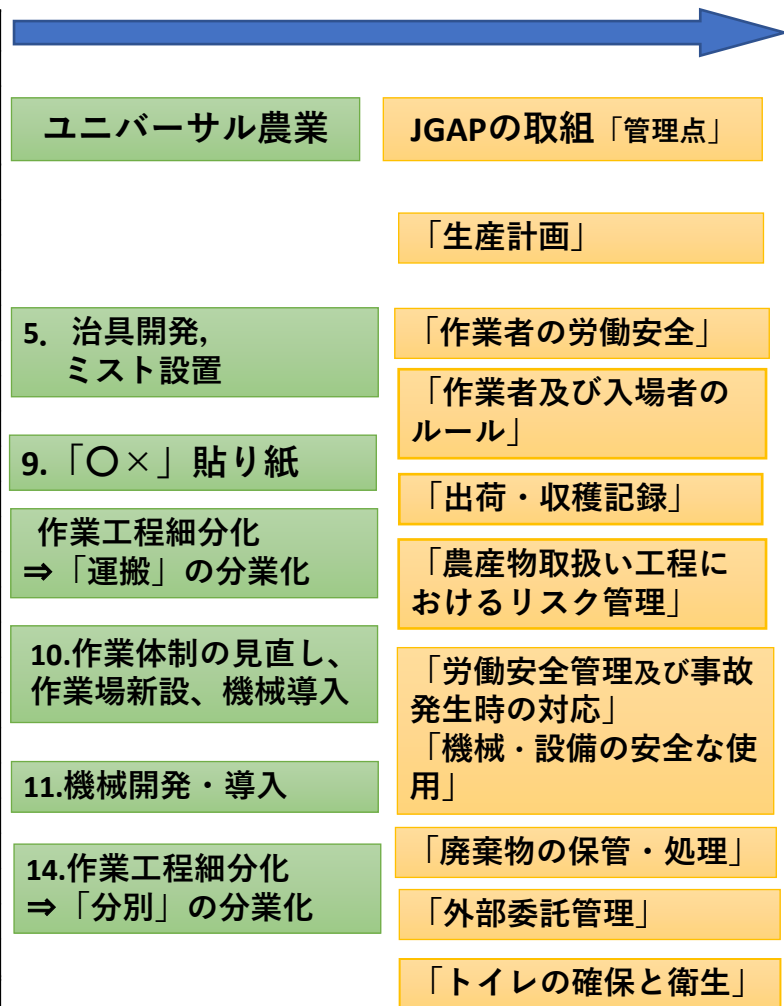
「廃棄物の保管・処理」

「外部委託管理」

「トイレの確保と衛生」

- ・ 障害者雇用 1995年～（1名から開始）
- ・ JGAP認証 2013年取得

業務内容	担当人数	障害者雇用初期段階						
		作業担当者					特例子会社	福祉施設
		経営者	役員	社員	パート	障害者		
1 栽培計画	1			1				
2 作業指示/人員管理	1	○						
3 マニュアル作成	1	○						
4 育苗	1			1				
5 定植	5					5		
6 栽培管理	1	○						
7 栽培記録	1			1				
-	-							
8 草刈り（草刈り機）	1	○						
-	-							
9 収穫	6			1		5		
-	-							
10 調製	2				2			
-	-							
11 パネル洗い	1					1		
12 パネル運び	1				1			
13 栽培ベンチ掃除	1					1		
14 廃棄・分別処理	1				1			
15 農薬在庫管理	1	○						
16 資材管理	1	○						
-	-							
17 営業	1	○						
-	-							
担当業務数合計		7	0	4	3	4	0	0



# 障害者雇用 1人→24人（2019年時点），作業委託 20人（特例子会社，福祉施設）

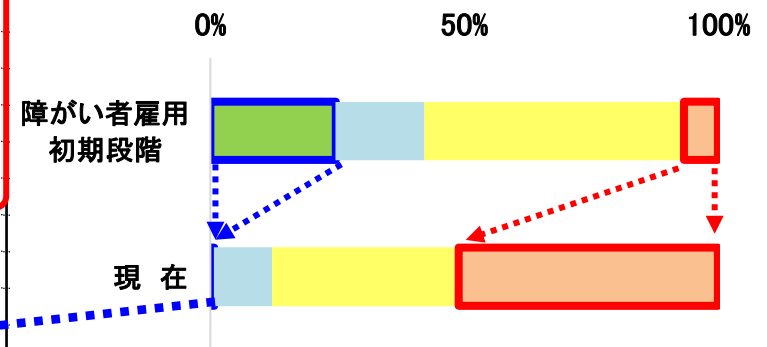
**現在（2019年5月時点）**

業務内容	担当人数	作業担当者						
		経営者	役員	社員	パート	障害者	特例子会社	福祉施設
1 栽培計画	1			1				
2 作業指示/人員管理	1	○		1				
3 マニュアル作成	1	○		1				
4 育苗	1			1	1			
5 定植	8					1	7	
6 栽培管理	1	○		1				
7 栽培記録	1			1				
8* 草取り（ハウス内）	4*							4
9 草刈り（草刈り機）	1	○			1			
10* 農薬散布	1*			1				
11 収穫	10			1		3	7	
12* 収穫物運搬	3*					3		
13 調製（梱包出荷）	5			1	1	3		
14* コンテナ洗い	1*					1		
15 パネル洗い	1					1		
16 パネル運び	2				1	2		
17 栽培ベンチ掃除	1					1		
18 廃棄・分別処理	2				1	2		
19 農薬在庫管理	1	○		1				
20 資材管理	1	○		1				
21* 資材管理（商品化）	1*			1				
22 営業	1	○		1				
23* 研究開発	2*	○		1				
担当業務数合計		1	0	12	3	9	2	1

## 作業環境等への配慮による効果

- 業務内容数：17→**23**  
（作業工程の細分化）
- 雇用障害者の担当業務：4→**9**  
（障害者の業務範囲拡大）
- 外部の障害者の就労機会確保  
（作業委託）

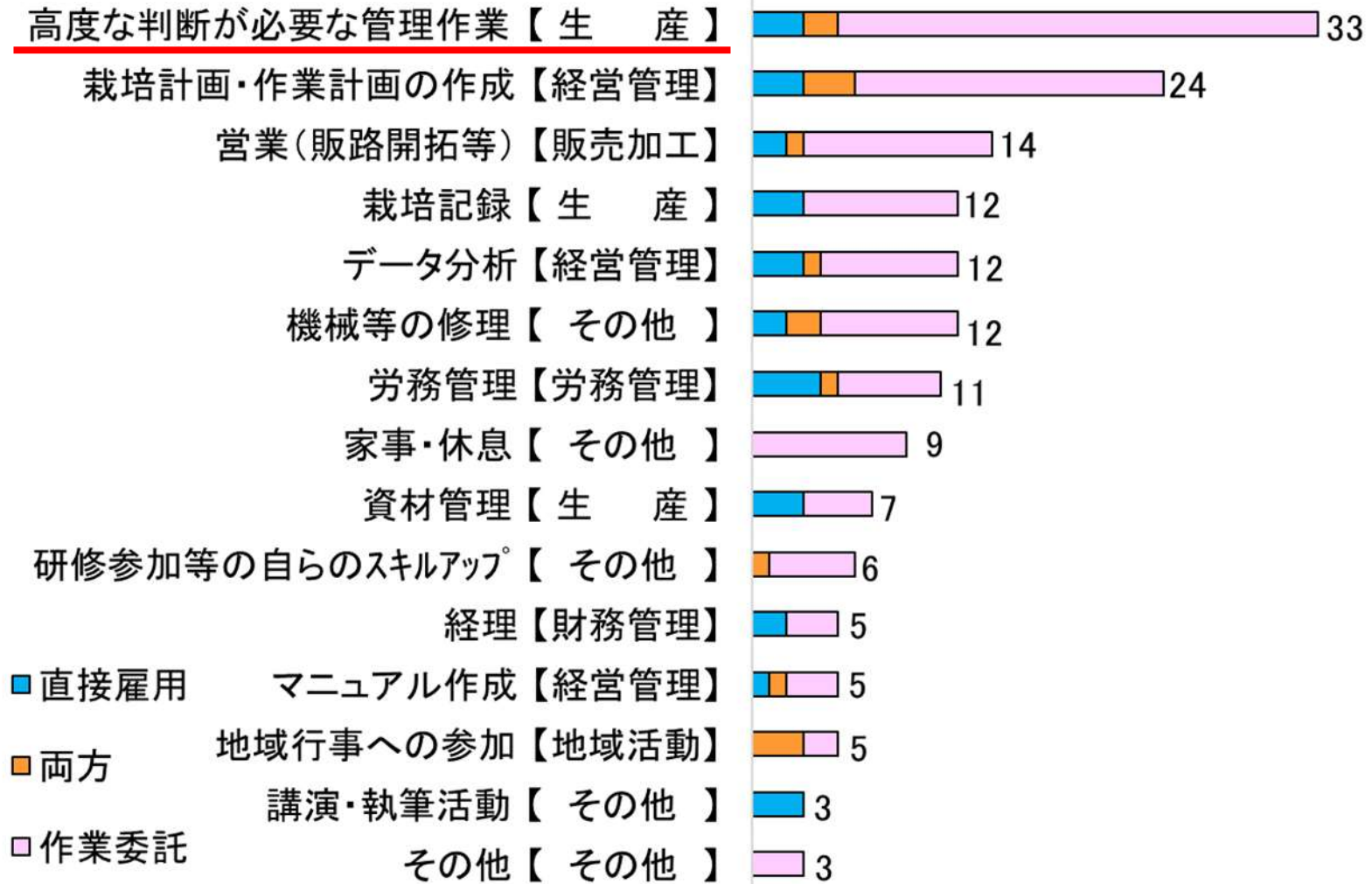
■ 経営者・役員 ■ 社員 ■ パート ■ 障がい者



年間延べ労働時間

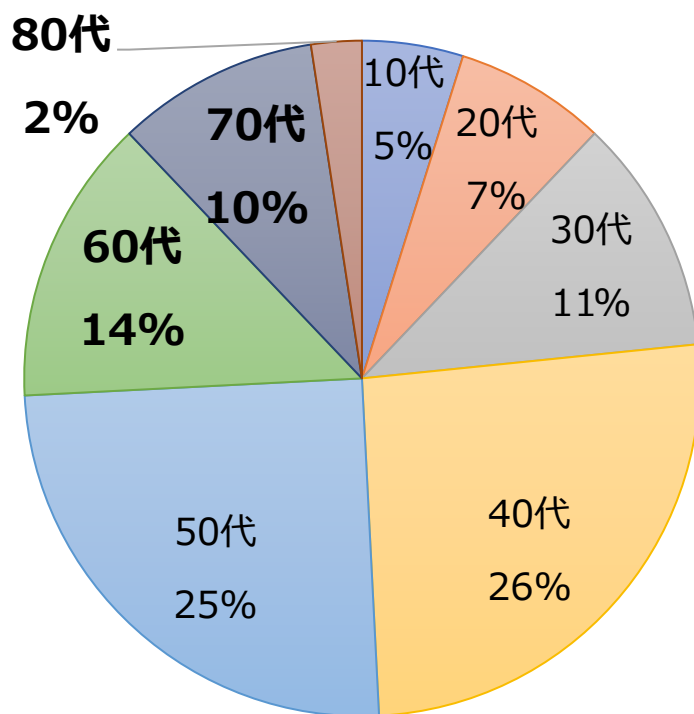
# 波及的な効果

障害者を受入れる → 経営者の「栽培作業の時間」減少 → 空いた時間は？



## 《働き場を「ユニバーサルデザイン」することの効果》

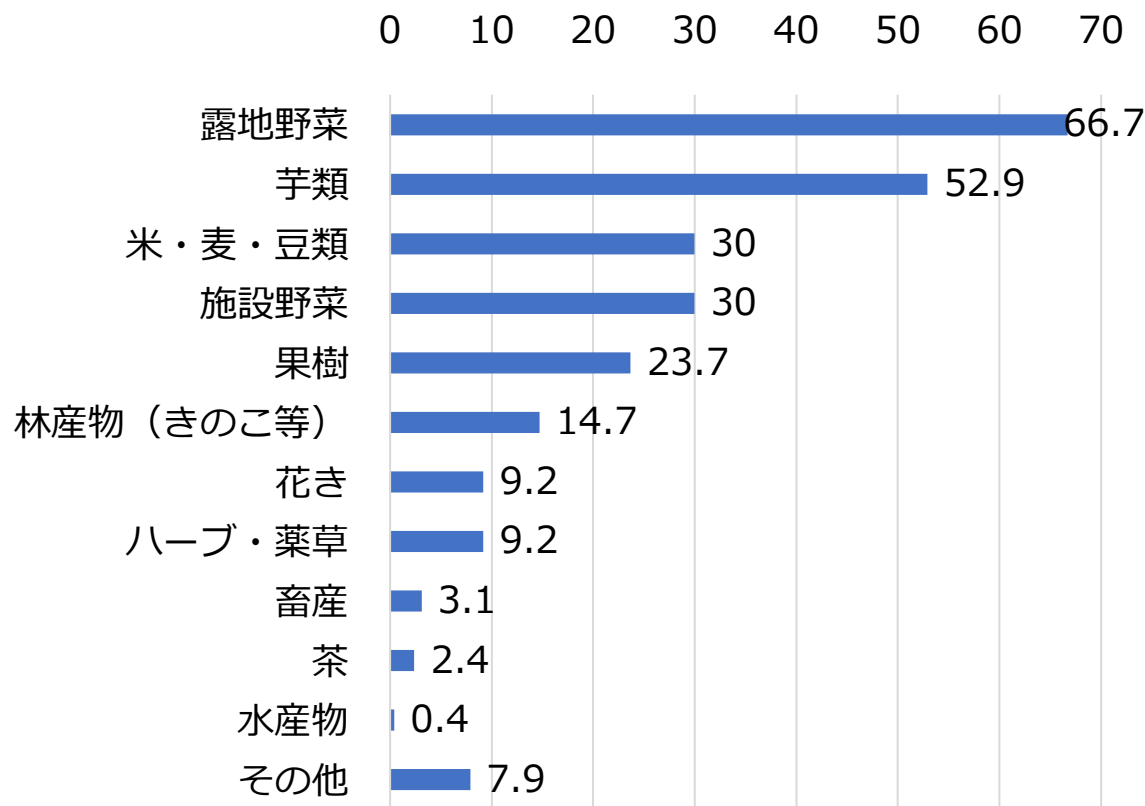
- ◆ 障害者が働ける“農業”を実現させたことにより、  
**高齢者**や女性、若者が働きやすい職場となった
- ◆ **16歳～88歳の多様な人達が活躍**する場となっている



年代別割合

平均年齢	46歳
65歳以上	15%
障害者雇用率	44%
男女比	4 : 6

### 3. 福祉的就労における農業の取組



障害福祉サービス事業所における農業生産品目  
(n=544)

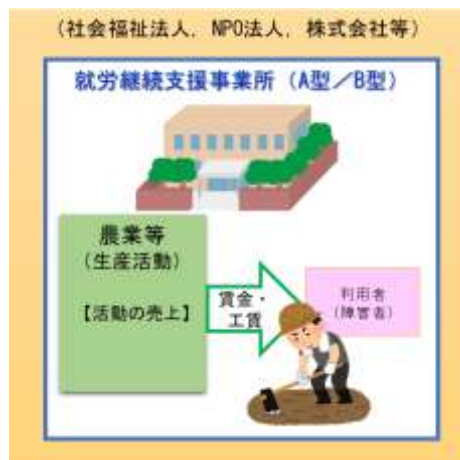
出典：一般社団法人日本基金（2023）「農福連携に関するアンケート調査結果」  
註：2022年に全国の障害福祉サービス事業所を対象に実施（有効回答数：846）



# 福祉的就労

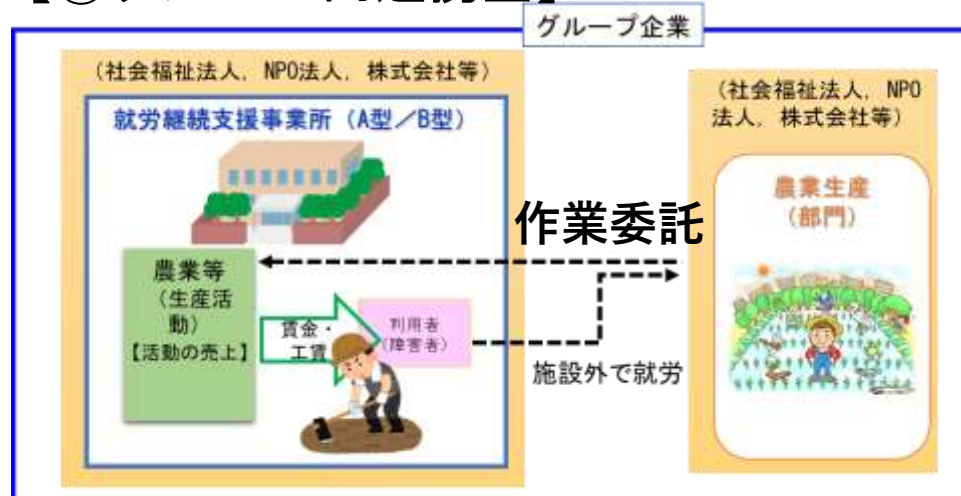
分類の参考：農林水産省（2019）「農福連携事例集（Ver.2）」

## 【①福祉完結型】



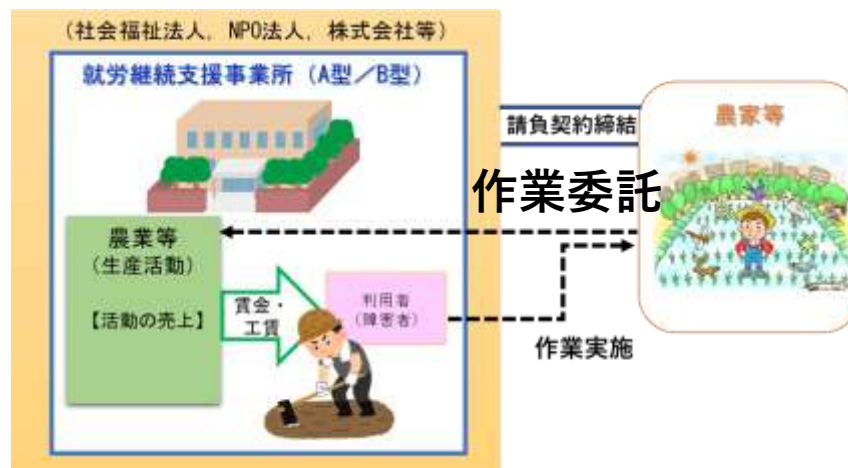
就労系障害福祉サービス事業所が単独で農業を行う

## 【②グループ内連携型】



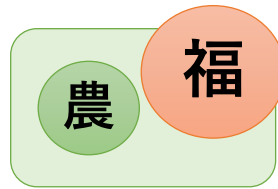
社会福祉法人等が、農業生産法人を併設、または、農業者が、就労系障害福祉サービス事業所及びその設置・運営法人を併設

## 【③連携型】



農業者と外部の障害福祉サービス事業所が農作業に関する請負契約を締結

## 【①福祉完結型】



### 事例：就労継続支援A型事業所 マヤファーム

- **運営法人**：NPO法人ネオクリエイション
- **人 員**：職員6人、利用者20人
- **生産活動**：農業
- **経営耕地面積** 6.5ha（和気町及び周辺地域内に70箇所以上）
  - 水 稲 2.0ha
  - 白ネギ 2.0ha（露地）
  - 青ネギ 0.4ha（露地）
  - チンゲンサイ 0.2ha（ハウス7棟、8-9作/年）
- **主な販路**：岡山市中央卸売市場（野菜）80%、  
加工（青ネギ）10%、直売・その他：10%

- ・ 「就労継続支援A型事業では、雇用・福祉双方の視点から、障害者の就労能力や適性を評価する仕組みが十分確立されていない（厚生労働省，2020）」

- ・ 先進的な取組を行う就労継続支援A型事業所（高橋，2020）

就労能力や適性評価，事業所職員の支援の在り方の再検討  
（「**管理**」から「**見守る**」姿勢へ）



利用者の作業スキルの向上

利用者の自主性を高め、利用者が**主体的に**生産活動を行えるよう見守る



利用者の賃金を支払える生産活動の実現へ

就労継続支援A型事業所における

農業を通じた就労（主体的な生産活動）の一例を紹介

# 1) 取組の経緯

2006年 新規就農



地域の福祉施設利用者の日中活動の場として、障害者を受入れる

2010年 職親事業



地域で先行して農福連携に取り組んでいる先輩農業者に相談

2011年 NPO法人ネオクリエイション設立

2012年 就労継続支援A型事業所「マヤファーム」開設

約10年



- ・利用者の増加
- ・農地面積の拡大
- ・勉強会等による、職員と利用者のスキルアップ



現在

- 利用者 (4人→20人)
- 農地面積 (0.5ha→6.5ha)
- 野菜は全て市場出荷

地域の高齢農家や非農家からの要望を受けて農地面積を拡大させるとともに、栽培する作物の種類も増やしていった。

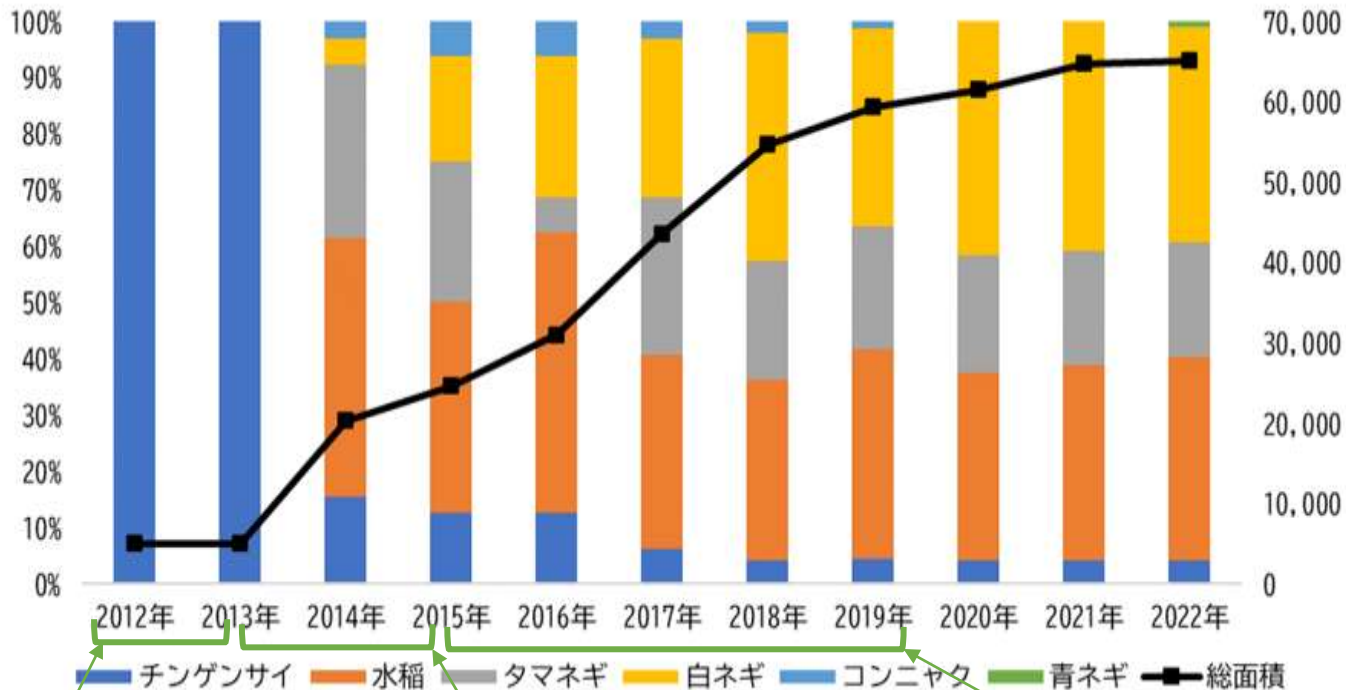


図1. 作物別栽培面積の割合 (%) と総面積 (m<sup>2</sup>) の推移

利用者はほぼ一律に同レベルの作業。  
(機械操作は職員のみ)

一部の利用者にトラクターを試行

トラクター、田植え機、コンバイン、草刈り機は一部の利用者担当。  
計画・計測・農薬の取扱いは職員、  
農薬散布は一部の利用者担当。

勉強会等の成果により利用者のスキルアップが着実に見られるように。



**農業**を通じて利用者（障害者）の**就労機会**を確保し、生産活動を行う上で必要なスキルの底上げを図り、**地域農業に寄与する取組み（地域での活躍の場の創出）**となっていく一方で、**課題も顕在化**。

### ■個別性への対応

- ・ 現状維持を希望する利用者
- ・ 一般就労を目指す利用者
- ・ マヤファームでさらなる自己実現を果たしたいと考える利用者（特定の作業あるいは作業全般において高いスキルを有する利用者）

### ■持続的な事業所の運営

- ・ 利用者の賃金（最低賃金以上）を支払える生産活動
- ・ 代表者の後継者となり得る職員の確保



- ・ 利用者の自主性を高め、利用者が主体的に生産活動を行えるよう「見守る」体制を重視
- ・ 新たな作物の生産による収入増加

## 2) 個別性への対応と持続的な事業所運営に向けての取組

- 3つの班による共同作業→全体勉強会は、各班に応じた勉強会へ
- 青ネギ（カット加工用）の生産を開始（2022年～）

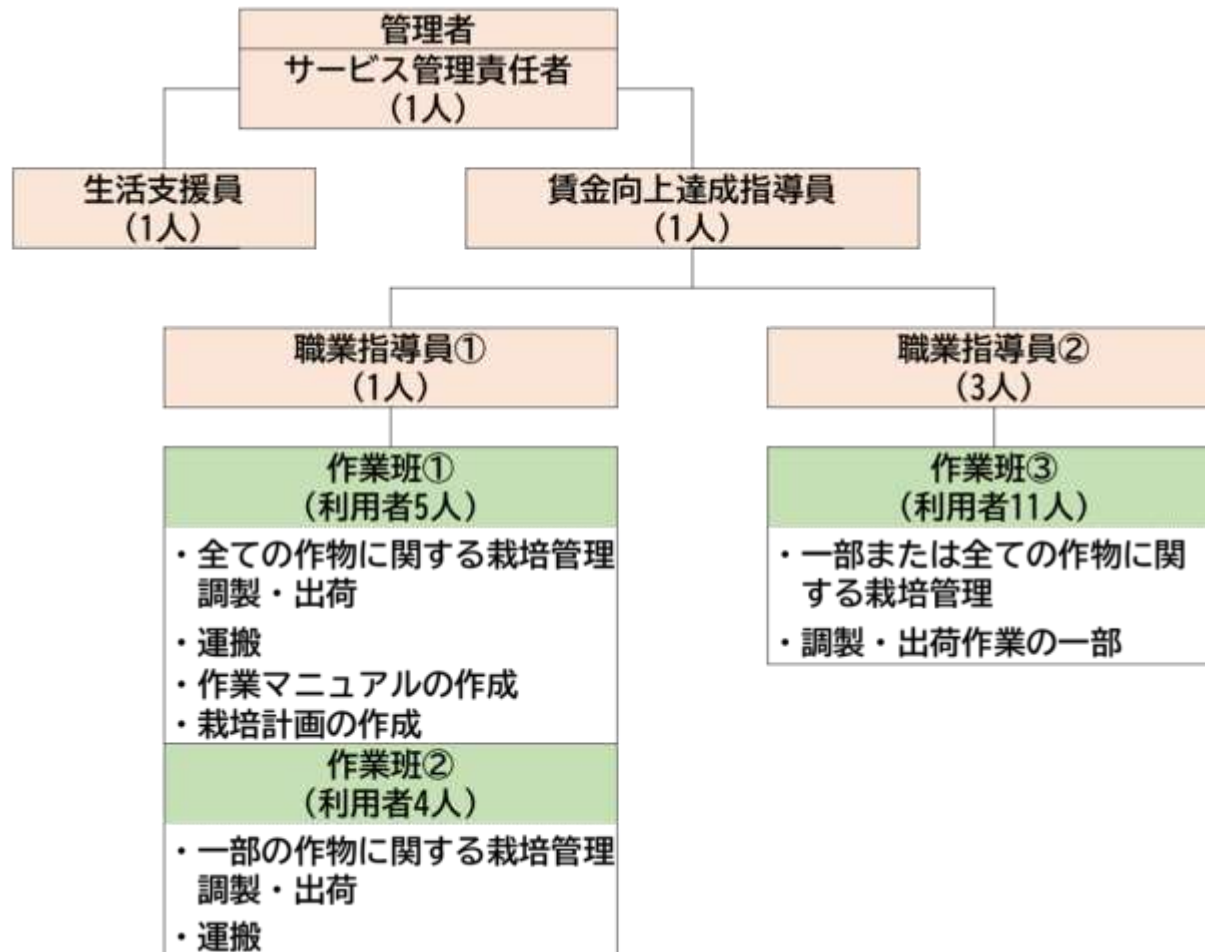


図3. 生産活動における人員体制図

注：1) 提供資料をもとに作成。利用者の人数は担当が可能人数であり、作業日ごとで異なる。



### 3) 取組の成果

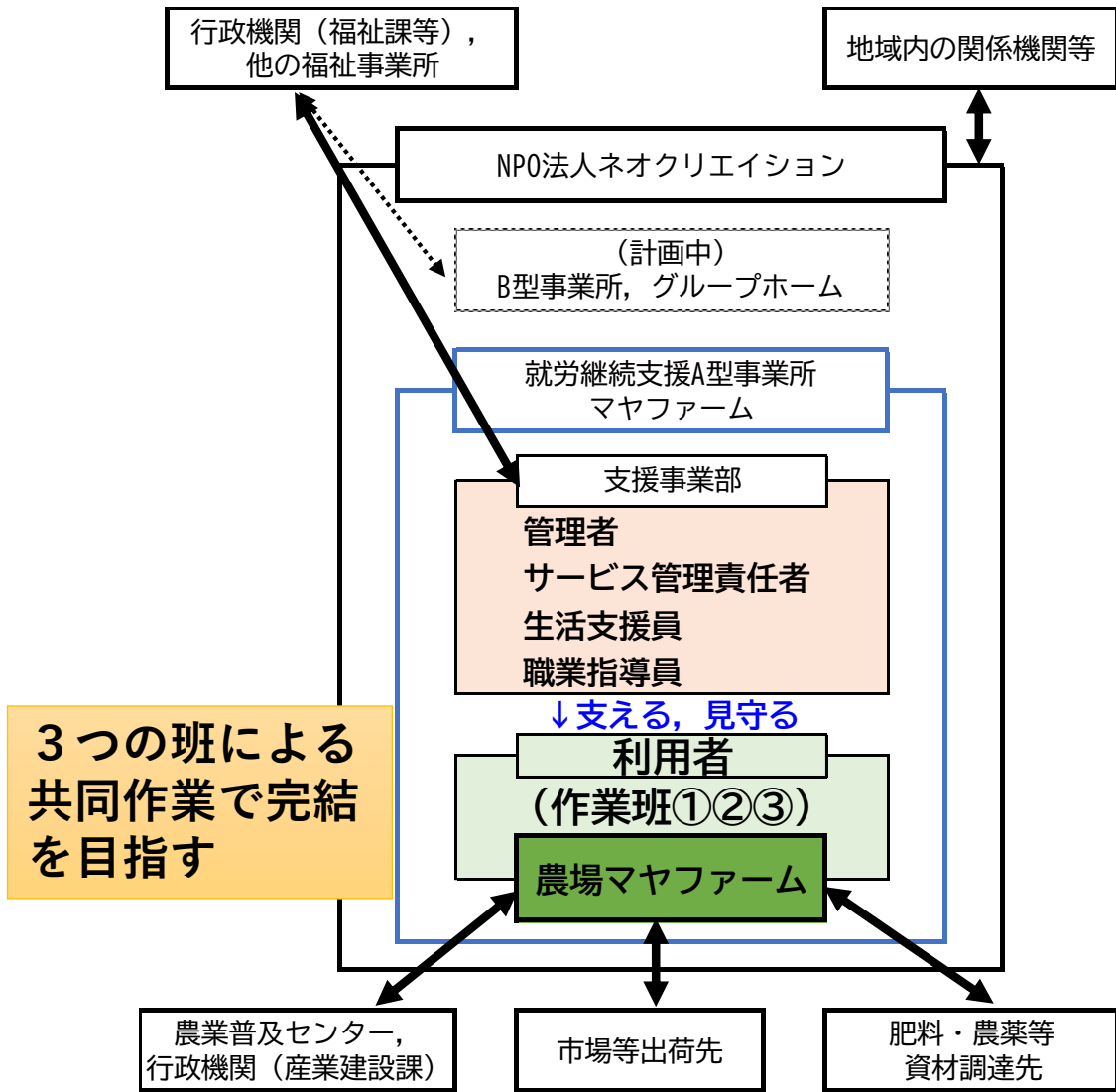


図4. 組織体制図

注：1) 業務を行う担当部門と相手方を矢印で結んでいる  
2) 点線は2023年8月時点では計画中。



図5：利用者が作成したマニュアルの一部（チンゲンサイの袋詰め）

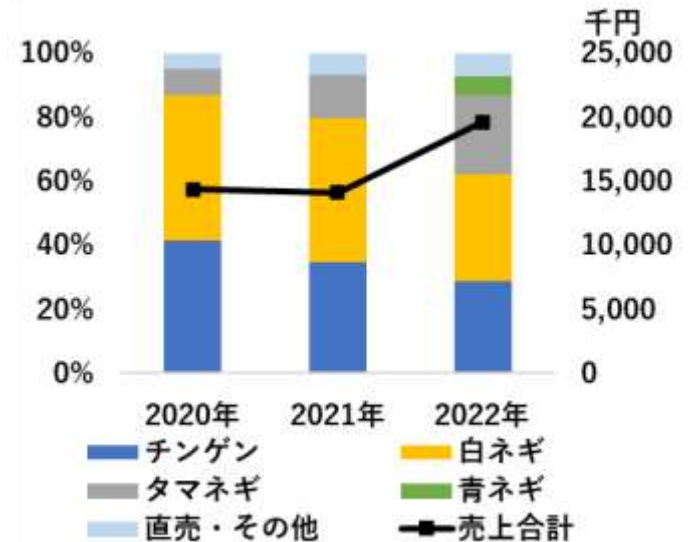


図6. 3年間の生産物売上推移

注：1) 青ネギは2022年に生産開始。

# 4. ケア・ファーム

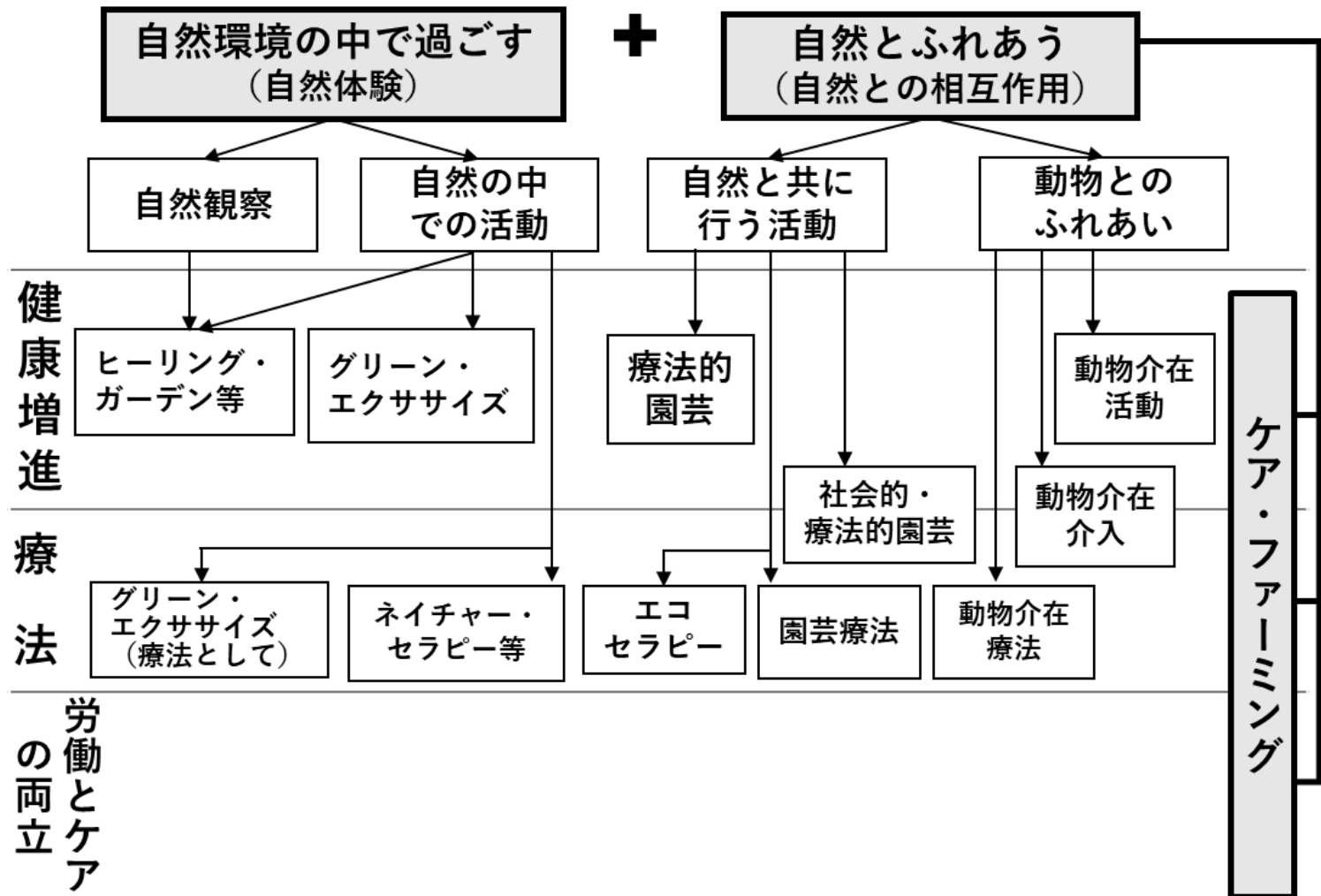


図1. グリーン・ケア活動との関係からみるケア・ファームリング  
 出典：Hauebhofer et al.(2010)を基に作成。

# 日本におけるケア・ファームの先進的な研究

宇良\*・岡村\*ほか（2021；2022）

\*東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム

- Ura C, Okamura T, Yamazaki S, et al. Rice farming care as a novel method of green care farm in East Asian context: an implementation research. BMC Geriatr. 2021;21(1):237.
- Ura C et al. Living for the city: Feasibility study of a dementia-friendly care farm in an urban area. Int J Geriatr Psychiatry. 2022;37(9):10.1002/gps.5794.

稲作を活用したデイケアプログラム（認知症高齢者対象）に関する実践的な研究や、都市部在住の認知症高齢者を対象としたケアファーム（都市型農園）の研究・実装など。

# 農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)に基づく施策の推進方向について



↑詳しくはこちら

- 「農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)」(令和6年6月5日農福連携等推進会議決定)に基づき、「地域で広げる」「未来に広げる」「絆を広げる」を新たなスローガンに、「農福連携等を通じた地域共生社会の実現」を目指して、法務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省が連携した施策を推進。

## 農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)の概要

地域で広げる

未来に広げる

絆を広げる

- 地域協議会や伴走型コーディネーターの活動を通じて、地域単位の推進体制づくりを後押し
- 生産施設等の整備やスマート農業技術等の活用
- 地域での多様な連携やノウフク商品のブランド化
- 現場で農業と福祉をつなぐ専門人材の育成
- 農業の担い手や農業高校の生徒等への普及
- 特別支援学校の実技・実習要望に対する農業者による協力・支援
- ノウフクの日(11月29日)等による企業・消費者も巻き込んだ国民的運動の展開
- 社会的に支援が必要な人たちの農業での就労
- 世代や障害の有無を超えた多様な者の交流・参画の場としてのユニバーサル農園の拡大
- 林福・水福連携の推進

## 農福連携等を通じた地域共生社会の実現

KPI

2030年度までに、4省庁が連携して、農福連携等の取組主体数を12,000件以上、地域協議会に参加する市町村数を200以上とする

- 地域協議会の体制イメージ  
都道府県振興局、市町村、農業・福祉関係者、教育機関等が参画
- 地域協議会で想定される取組
  - ・農業と福祉のネットワークづくり(交流会、体験会等)
  - ・地域内の農福連携のルールづくり(作業単価の設定等)
  - ・マッチングや農業実習の受入れ
  - ・事業者間で共同した販路開拓等



恵庭市農福連携ネットワーク(北海道)



大隅半島ノウフクコンソーシアム(鹿児島県)

- ユニバーサル農園とは  
世代や障害の有無を超えた多様な者の交流・参画、健康増進、生きがいづくり、職業訓練、立ち直りなど、農業体験活動を通じて多様な社会的課題の解決につながる場



NPO法人土と風の舎  
こえどファーム(埼玉県)

# 多様な農福連携の取組と効用

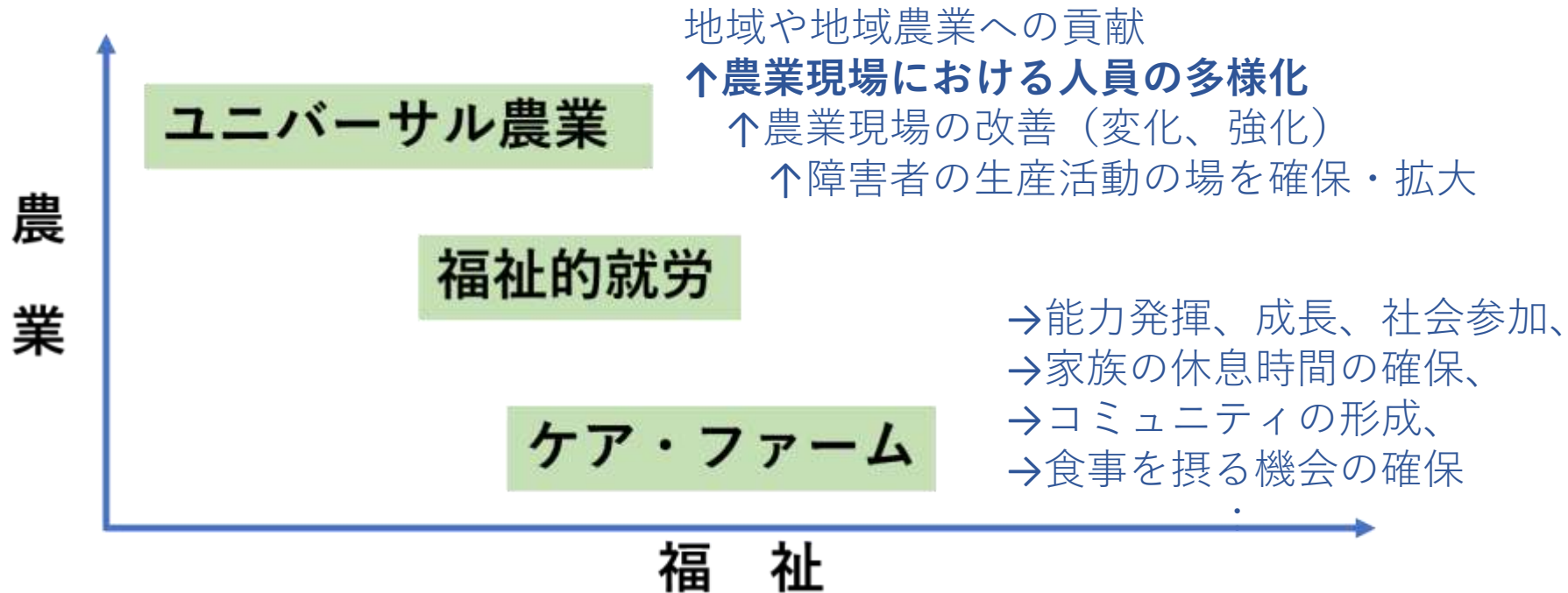


図2. 各取組がもたらす効用

# 5. 農福連携の取組の広がり と 展望

1. 障害者等の農業生産活動の場を広げ、農業現場を改善（変化、強化）させることにより、多様な人材が農業現場に参加できる可能性が生まれ、地域や地域農業に貢献する取組みへと繋がっていく。

→ユニバーサル農業への取組が多く、農業現場で広がることを求められる。

2. ケアを目的とした農の取組は、労働市場から離れた人々の生活と農業（農場環境）を結びつけ、様々な効用をもたらす。

→取組の社会的認知度を高めることで多様な人々の居場所が創出される。

一方で、生産物は自家消費に留まる場合もある。

→有効な活用先（子ども食堂・福祉施設等）に繋がるフードシステムを構築させることで、地域に貢献する取組みへと展開していく

3. 生産、加工、流通・販売等を踏まえた取組（六次産業化）に組み込まれることで、多様な形で地域経済の貢献にも繋がる可能性がある。

# 参考文献

- 農林水産省（2021）『令和2年度食料・農業・農村白書』
- 厚生労働省（2020）「障害者就労支援の更なる充実・強化に向けた主な課題と今後の検討の方向性（中間取りまとめ）」
- 濱田健司（2009）「農業法人における障害者等「ユニバーサル農業」就労にかかる取組み—静岡県・京丸園株式会社を事例として—」『共済総研レポート』：37-46.
- 鈴木厚志（2023）『ユニバーサル農業～京丸園の農業/福祉/経営～』創森社.
- 松為信雄（2021）『キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセリング—理論と実際—』ジアース教育新社.
- 高橋悠（2020）『就労移行支援・就労継続支援（A型・B型）事業所運営・管理ハンドブック』日本法令.
- 井上果子・中武聡美（2021）「農によるエンパワメントと包摂的發展—人間発達を目標とする社会的農業の事例研究—」『農村計画学会論文集』1（1）：113-123.
- Federation Landbouw en Zorg (2022), Handboek landbouw en zorg, versie 7.2 juli 2022.
- Haubenhofers, D.K., M. Elings, J. Hassink and R. Hine (2010) The development of green care in Western European countries, *Explore* 6(2): 106-111.
- 鄭玉姫（2017）「オランダ混合農業地域の農家におけるケアファームの運営とその意義」立教大学観光学部紀要 19：66-75.
- 新名正弥・宇良千秋・岡村毅・矢富直美・山崎幸子・高橋正彦（2020）「オランダにおけるケア・ファーマー農作を認知症ケアに応用するための要件—」『日本認知症ケア学会誌』18（4）：855-861.
- 後藤玲子（2015）『福祉の経済哲学—個人・制度・公共性—』，ミネルヴァ書房：45-57.
- 川手督也（2016）「日本における福祉農業の現状と関連政策の展開」Exploring Cooperative ways and Promoting practices by country for activating Agro-healing in Korea, シンポジウム報告資料.
- 中本英里・胡柏（2016）「ひきこもり者の社会復帰と自立性向上に果たす農園芸活動の役割—農業の医療・福祉効果に関する実験社会科学的考察—」『農業経済研究』87(4)：319-333.
- 中本英里・澤野久美(2020)「「ユニバーサル農業」とJGAP導入が障害者の職域拡大に与える影響」『農業経営研究』58(3)：21-26.
- 中本英里（2023）「就労系障害福祉サービスにおける農業の役割と課題」『2023年度日本農村生活学会大会（第71回大会）報告要旨集』：51-52.